

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年12月 9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0772700266		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	グループホーム かりん		
所在地	〒969-6254 福島県会津美里町荻窪字上野185番地 (電話) 0242-54-7900		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】(平成20年10月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤0人, 常勤換算7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000円	その他の経費(月額)	20,900円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有 ○ 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	79歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高田厚生病院、水口歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所では、利用者とのコミュニケーションを大切にし、見守りを重視しながら一人ひとりの思いを大切にして支援しているため、利用者のちょっとした変化にもすぐ気付くことができる。利用者が工作、ちぎり絵、習字等好きなことができるよう隣接する介護老人保健施設のクラブ活動に参加したり、散歩、買い物、美術館巡り等利用者の希望に合わせて個別に外出支援している。居室から直接散歩に出てしまう利用者へも鍵をかけずに、見守りを重視し付いて行きながら対応している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価結果では特別、取り組みが必要だと指摘された項目はなかった。しかし、看取りに関する同意書を作成したりし更なる質の向上のために改善した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、自己評価を自分を振り返る大切な機会だと職員全員で取り組み、職員会議で改善課題等を把握し検討することで質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、地域包括支援センター職員、地区民生委員、利用者家族、法人支援の会代表等に依頼している。委員の中から委員長を選任し、委員長が会議を主体的に進めている。会議では「外部評価の結果」「地域への介護教室の開催」「防災訓練について」「事業所の様子」等を報告し、委員から意見をいただき、運営に反映し、2ヶ月に1回定期的に開催されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族面会時に利用者の様子を詳しく伝え、家族の意見等聴取しやすい雰囲気作りをしている。出された意見等はすぐに運営に反映させるよう申し送りしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>盆踊り、祭り等に利用者と一緒に参加し、地域からもボランティアや民生委員等の訪問があり、双方向の交流がされている。地域の社会資源(図書館、公民館、美術館等)も積極的に利用している。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、地域密着型サービスの役割を反映した理念に作り直した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について管理者は職員会議等の中で掘り下げて伝えており、また、日頃の会話の中でも話しをし、職員全員で共有できるような体制となっている。職員は、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊りや祭り等に利用者と一緒に参加し、地域のボランティア、民生委員等の訪問もあり、双方向で地域と交流している。地域の図書館や公民館、美術館等地域資源も活用している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で取り組みを期待したい項目としての指摘は無かった。看取りの同意書を作成し更なる改善を行っている。今回の自己評価は、振り返りの機会だと捉え一人ひとりが作成したものをかりん会議の際に検討しまとめた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員、地区民生委員、利用者家族、法人支援の会代表等に運営推進会議の委員を依頼し、2ヶ月に1回定期的に開催している。委員の中から委員長を選任し、委員長が主導する形で外部評価、介護教室、防災訓練、事業所の様子等についてグループホームから報告し、委員から意見等を出してもらいサービスの向上に活かしている。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時に日頃の様子や健康状態を伝え、利用者の体調の変化についてはその都度電話で家族へ連絡している。事業所だよりとしてかりん通信を年に2~3回発行し、また、一人ずつ利用者の写真を載せたかりん便りを毎月作成し、担当者が利用者の様子を報告している。金銭管理も適切に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に日頃の利用者の様子を伝え、家族から意見等聞き取るようにしている。聞き取った意見等は、申し送り等で共有し、運営に反映できるような体制となっている。		今後は、些細な意見や要望も記録として残していくようにされればさらに良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際、新しい職員が慣れるまで馴染みの職員が1~3ヶ月位指導し、信頼関係を築けるよう支援している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は職員の段階に応じた研修計画を作成し、研修受講の機会が確保されている。法人外の研修は職員の希望も取り入れて参加者を決めている。研修受講後は、毎月の会議で報告し、全員で共有できるような体制となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に入会し、会津方部の研修委員長を引き受け積極的に交流を行っている。同じ町の他の事業所と交流や情報交換する機会を通してサービスの質を向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔から伝わる食習慣や地域の行事、風習等を利用者から教えてもらいながら一緒に行っている。利用者に手伝ってもらった時は、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情から利用者の思いや意向を把握したり、把握が困難な際は、家族とも相談し利用者本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、担当職員の意見を基にカンファレンスで検討し作成している。出来上がった介護計画を家族に確認しながら、支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直しをしており、利用者の状態や思いに変化があった場合には利用者や家族と話し合い、現状に即した計画を作成している。	○	利用者の状態変化等把握し、適切に介護計画を見直ししているが、更なる質の向上のために短期目標をより具体的な内容にされれば、さらに良いと思われる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望で主治医を決めており、月に1～2回の受診の機会が確保されている。家族対応時には状況に応じて職員も同行し、主治医に説明している。職員同行の場合は、その都度家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応方針を作成し、医療連携体制加算の同意を取っていたが、昨年、看取り介護についての同意書も新たに作成し、利用者と家族に説明して同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーについては、職員は言葉かけや支援の際、十分注意して対応している。職員会議の時にも利用者のプライバシーについて、話し合い適切な支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースや希望を大切にして、その日、その日の支援を行っている。散歩に出る人、買い物と一緒にいく人、高齢な利用者の起床、食事等は利用者のペースで過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、準備、後片付け等できる利用者には手伝ってもらい、職員と利用者が一緒に食卓を囲み楽しく食事できるよう雰囲気作りしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿い入浴の支援を行っており、毎日入浴する人もいる。脱衣場、浴室とも広く、一人ひとりに合わせて介助の仕方を変え、必要に応じて入浴器具を使用している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	廊下の掃除、洗濯物たたみ、シーツ交換の手伝い等できることをお願いしている。また利用者それぞれの得意なこと(習字、歌、手芸、編み物、調理等)を、クラブ活動に取り入れ、毎月の会議で検討し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	基本的な1日流れはあるが、希望に応じて散歩や買い物の支援を行っている。遠方への外出は併設施設のリフト車両を利用して、花見や、地域の祭り、紅葉見学などに出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵のかけないケアの重要性を理解しており、玄関や居室の鍵はかけていない。居室から直接散歩に出る利用者の安全性に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、併設の老人保健施設と消防署立会いのもと年2回行っている。事業所は毎月職員会議時に防災訓練も実施している。備蓄については、併設施設と共同で準備したり、それ以外にコンロやガスなども用意している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じて、お粥、キザミ食などを提供し、食事は利用者ごと摂取量、水分量を記録している。会議で献立表をもとに栄養バランスなども話し合い支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間にはソファやテーブルと椅子、畳コーナーにはコタツもあり、ゆったりと過ごせる広さである。共有空間の吹き抜けに利用者と一緒に作成したタペストリーの大作と毎月変える小さなサイズのものが飾ってある。利用者の作品（手芸、習字、貼り絵等）と行事の写真や観葉植物も多くあり、生活観に溢れていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が思い思いに馴染みの物を持参している。入居前に作品展で受賞した作品と盾を飾り、利用者の意向を取り入れた居室となっており、安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームかりん

記入担当者名 片山 玲子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。